

「ボーナスと暮らし向きに関するアンケート調査」(2012年夏)の結果

当センターでは、2012年夏のボーナス予想や暮らし向きについて、千葉銀行各支店の来店客(1,000人)を対象にアンケート調査を実施し、その結果は次のとおりとなった。

概 要

ボーナス予想額 : 49万8千円(昨夏比、2万2千円減少(4.2%減))

今夏のボーナス予想額は49万8千円となり、昨夏の受取額(回答者の実績)を2万2千円下回った。したがって、国際的な金融危機の引き金となったリーマンショック後の2008年冬以降今夏まで、夏冬を通じて8季連続の前年実績割れを記録する結果となった。今夏の減少率は△4.2%で昨夏の減少率△4.5%に比べ減少幅は縮小したものの、低迷が続いている。

今回のアンケート調査は、東日本大震災後まだ1年1ヵ月しか経過しておらず、復興に向けて国内全体が色々な面で試練にある中での実施となった。未曾有の災害を体験した後でもあり、ボーナス調査及び暮らし向き調査は、先々への不安から低調な回答となった。

復興予算が本格的に始動し、一方で昨年からの企業業績のゆるやかな回復傾向を取戻し、さらにデフレからの脱却も出来るという期待感もある。しかし、県内一円の給与所得者を対象とした当センターの調査では、前年実績を上回るのはまだ先という回答結果になっている。

暮らし向きアンケート調査の「生活全般」について質問した結果

半年前とくらべて:

「変わらない」が8割を占め、暮らし向きに対する停滞感が根強い。

今後半年間の予想は:

先々に対して、現状より悪くなりそうとの悲観的な回答が増加している。

直近半年間の暮らし向きについては、「生活全般」において前年夏の調査に比べ、「良くなった」5.7%(前年夏5.0%)であり、0.7ポイント良化し、「悪くなった」も14.1%(前年夏23.1%)であり、9.0ポイント良化し、生活全般の改善が見られる。「変わらない」は80.2%(前年夏71.9%)と8割を占め、暮らし向きに対する停滞感は依然として根強い。

また、先行き(今後半年間)の見通しにおいては、「良くなりそう」7.5%(現状5.7%)で1.8ポイントの若干の良化を予想しているが、「悪くなりそう」においては、26.4%(現状14.1%)と現状より12.3ポイント悪化を予想しており、先々に対し悲観的な回答を寄せている。

▽ボーナスの増減予想では、「増えそう」は7.8%(昨夏7.2%)と0.6ポイント増加し、「減りそう」は28.9%(昨夏37.5%)と8.6ポイント減少し、ともに前年に比べ、良化となっている。しかし依然として、「減りそう」が「増えそう」を21.1ポイントも上回っており、厳しい状況は続いている。

▽ボーナスの配分については、1位「貯蓄」、2位「ローン等の返済」、3位は「教育・教養」である。「貯蓄」は去年より増加し、42.6%と高い配分割合を示している。

▽貯蓄の内訳をみると、「銀行預金(財形貯蓄を含む)」80.2%、「ゆうちょ貯金」9.0%、「社内預金」6.8%、「株・投信」1.4%の順となっている。順位も昨夏と同じで、銀行預金の堅調さが今夏も目立っている。

▽貯蓄の目的は、1位「教育資金」、2位「老後の備え」、3位「住宅関連資金」が上位を占めた。以下「旅行レジャー」、「不時の備え」、「車の維持管理」の順となっている。

▽購入希望品目では、1位「婦人服」、2位「紳士服」、3位「家具・インテリア」が上位を占めた。既婚・独身を問わず男性は「紳士服」、女性は「婦人服」をそれぞれ1位にあげている。

調査結果

1 ボーナスの増減予想

—ボーナスの増減予想では、「増えそう」は 7.8%（昨夏 7.2%）と 0.6 ポイント増加し、「減りそう」は 28.9%（昨夏 37.5%）と 8.6 ポイント減少し、ともに前年に比べ良化している。しかし依然として、「減りそう」が「増えそう」を 21.1 ポイントも上回っており、厳しい状況は続いている。—

この夏のボーナスは、昨夏に比べて、「増えそう」は 7.8%、「減りそう」は 28.9%、「変わらない」が 63.3%となった。「増えそう」（昨夏 7.2%）は 0.6 ポイント増加し、「減りそう」（昨夏 37.5%）は、8.6 ポイント減少し、共に良化した。

03年冬以降、リーマンショック前の08年夏までは「増えそう」、「減りそう」は共にバブル崩壊後の低迷を乗り越え徐々に改善し、緩やかではあるが良化を続けてきた。しかし、リーマンショック後の08年冬以降悪化に転じ、大幅な改善を見ることもなく、今夏に至っている。

「増えそう」と「減りそう」の差も「減りそう」が依然として 21.1 ポイント上回っており、改善が望まれる。（図表-1、2）。

年齢別に昨夏の調査結果と比較してみると、「増えそう」は「30歳代」を除く全ての年齢階層において昨夏比増の良化の予想となった。「減りそう」も「50歳以上」を除く全ての年齢階層において昨夏比減で、良化を予想している。

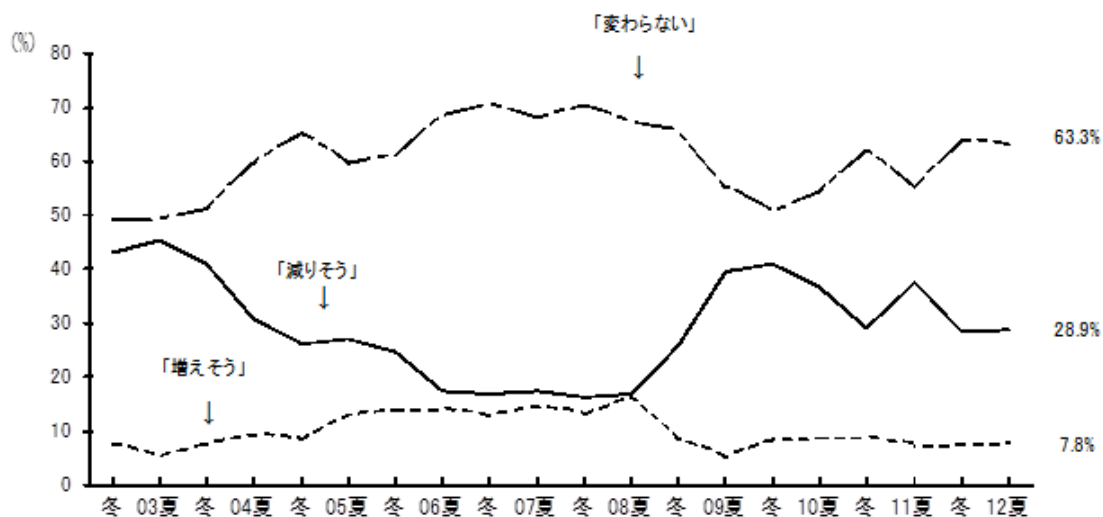
なお、ボーナス予定日は、6月中が全体の 53.5%（うち、上旬 17.8%、中旬 12.7%、下旬 23.0%）で、7月中が 34.1%である。

図表-1 ボーナスの増減予想（対前年比）

		（構成比、単位：%）		
		「増えそう」	「減りそう」	「変わらない」
平均	10夏	8.7	36.7	54.6
	11夏	7.2	37.5	55.3
	12夏	7.8	28.9	63.3
30歳未満	10夏	25.0	21.9	53.1
	11夏	16.2	24.3	59.5
	12夏	17.0	15.1	67.9
30歳代	10夏	11.5	33.8	54.7
	11夏	9.2	36.6	54.2
	12夏	7.5	29.9	62.7
40歳代	10夏	3.4	39.2	57.4
	11夏	2.9	46.6	50.5
	12夏	5.3	28.4	66.2
50歳以上	10夏	1.5	46.7	51.8
	11夏	4.8	35.7	59.5
	12夏	5.7	36.9	57.4

注) 不明、無回答を除いた構成比

図表-2 ボーナス増減予想割合の推移



2 ボーナスの予想額

—今夏のボーナス予想額は49万8千円となり、前年の受取額(回答者の実績)を2万2千円下回った。したがって、リーマンショック後の2008年冬から今夏まで、夏冬を通じて8季連続の前年実績割れを記録する結果となった。—

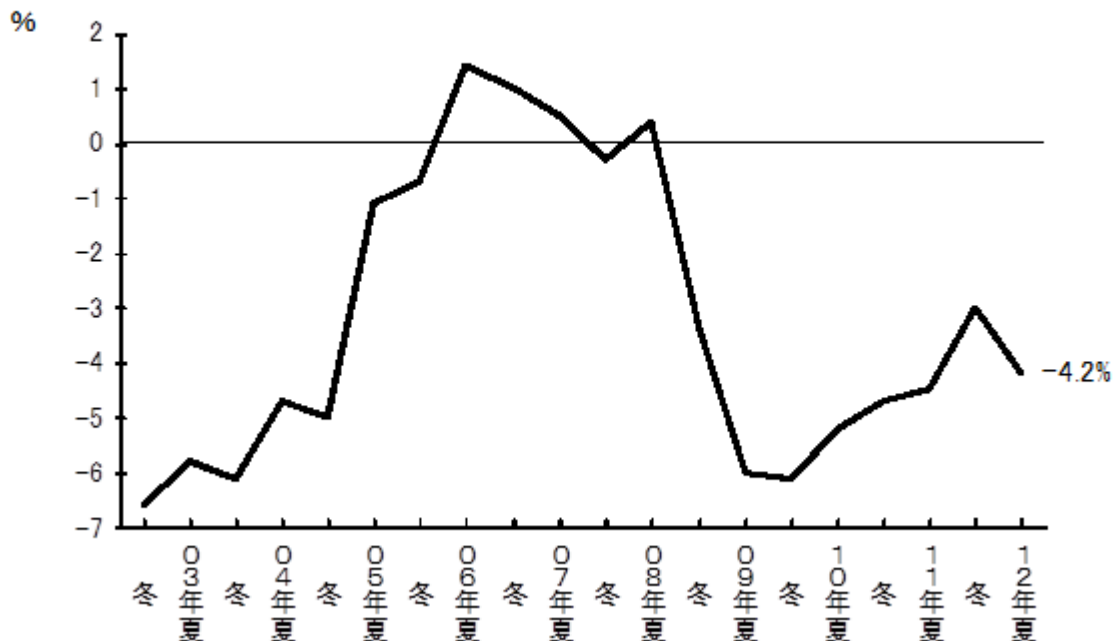
ボーナスの予想額(回答者の平均、税引き後の受取額)は49万8千円で、前年比4.2%減(回答者の前年実績比)となった。前年の受取額を2万2千円下回る回答である。今夏の調査は東日本大震災後の調査となり、質問に対する回答も厳しい方向に向きがちである。震災前の県内景気は国内景気同様、足踏み状態を脱し、持ち直しの動きがみられた。企業収益も合理化等が奏功し、業況は堅調に推移し、個人消費も減少幅は縮小し回復してきていた。しかし、本調査では、今夏も前年実績を上回ることができなかった。リーマンショック後の2008年冬から今夏まで、夏冬を通じて8季連続の前年実績割れを記録することになった。

09年夏の減少率は△6.0%で本調査開始以来、夏のワースト1位であったが、昨夏(11年夏)に続き今夏も減少幅は縮小している。(図表3、4)。

図表-3 ボーナス予想額・予想伸び率

		予想額 (万円)	予想伸び率 (対前年夏、%)
平均		49.8	△4.2
30歳未満		28.6	△0.3
30歳代		39.8	△3.2
40歳代		52.6	△2.6
50歳以上		68.3	△7.1
勤務	県内	46.1	△3.6
地別	東京	66.3	△6.0

図表-4 ボーナス予想伸び率の推移



3 ボーナスの配分予定

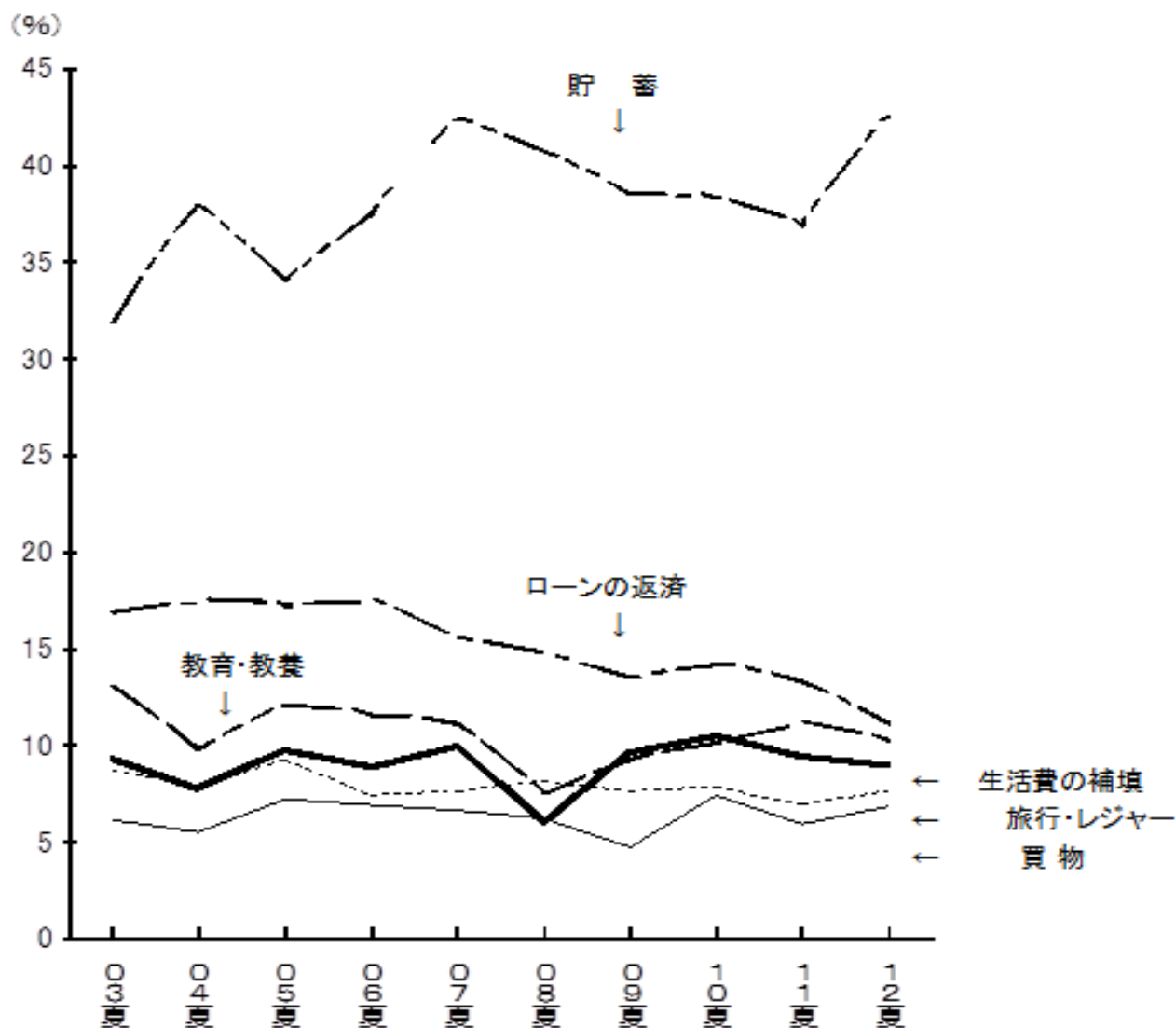
——ボーナスの配分については、1位「貯蓄」、2位「ローン等の返済」、3位は「教育・教養」である。「貯蓄」は去年(36.9%)より増加し、42.6%と高い配分割合を示している。——

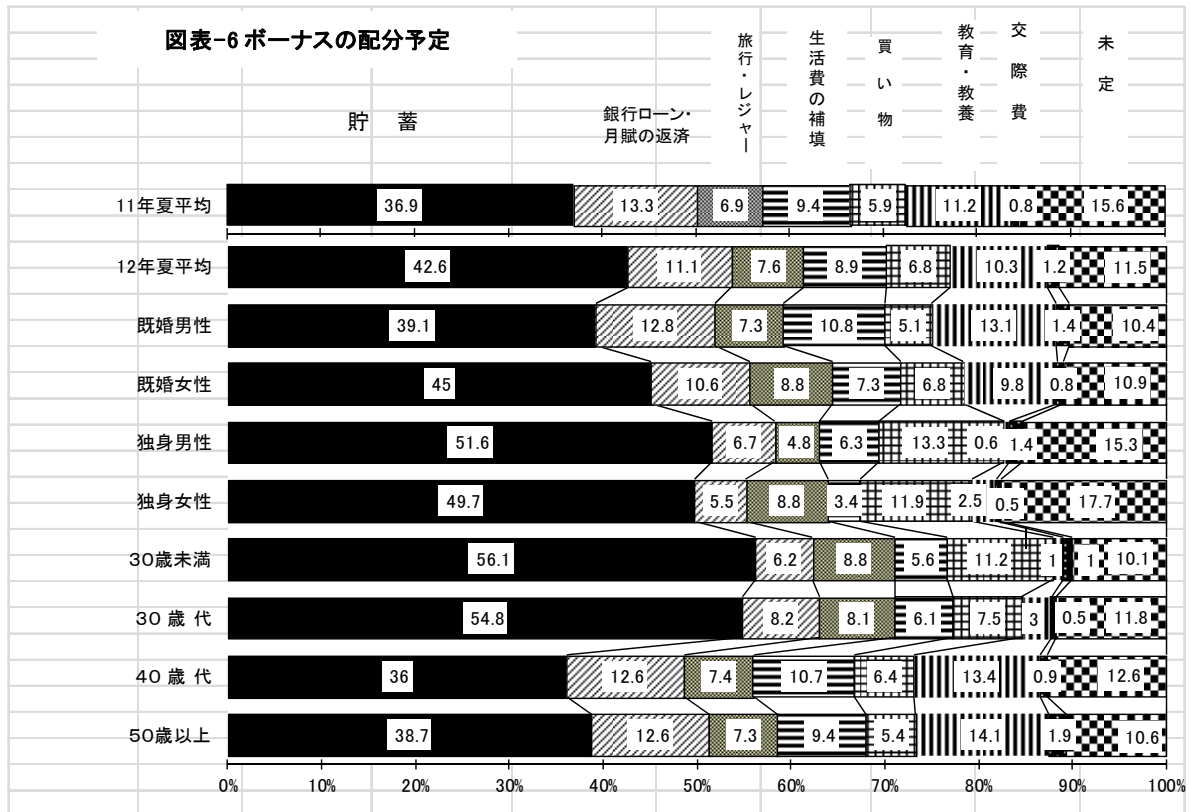
ボーナスの配分予定は、1位「貯蓄」(42.6%)、2位「ローン等の返済」(11.1%)、3位「教育・教養」(10.3%)で、以下「生活費の補填」、「旅行・レジャー」、「買い物」の順となっている。中でも、「貯蓄」は景気の上下にあまり関係なく常にトップである。(図表-5、6)。

既婚・独身、男・女別でみると、既婚・独身を問わず、まず「貯蓄」に回すと答えている。なかでも独身者は男性、女性ともに貯蓄志向が高く、男性は 51.6%、女性は 49.7%を貯蓄に回すと回答している。独身者の意外な堅実性が見て取れる。「貯蓄」以外の項目では、独身者は既婚者に比べて、「買い物」のウェイトが高く、既婚者は独身者に比べて「ローン等の返済」、「教育・教養」に高い割合を占め、独身者と既婚者のそれぞれの特徴を表わしている。

年齢別でも、全ての年齢層において、「貯蓄」が一番の配分となっている。特に、30歳未満(56.1%)と30歳代(54.8%)は貯蓄意欲が高い。「貯蓄」以外の年齢階層による特徴としては、30歳未満の年齢層が「買い物」に、40歳代・50歳以上は「教育・教養」、「ローン等の返済」に他の年齢層に比べそれぞれ配分割合が高くなっている。

図表-5 ポーナスの配分予定の推移





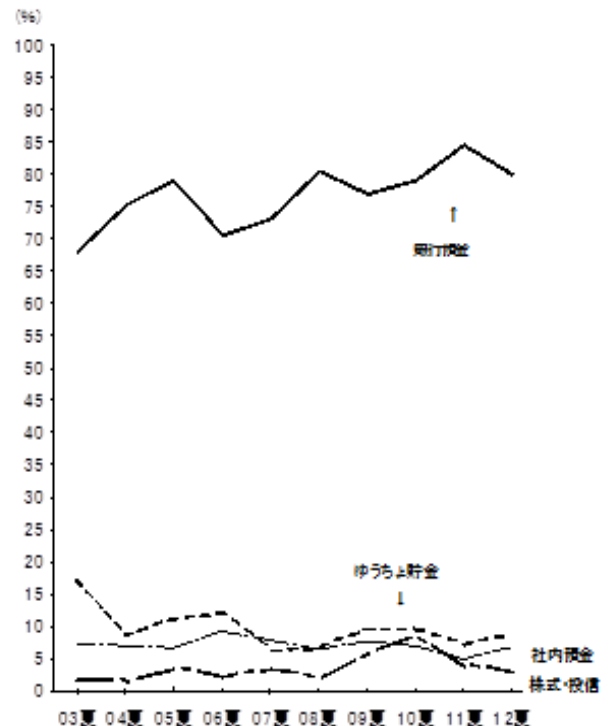
図表-7 貯蓄の内訳推移

4 貯蓄の内訳

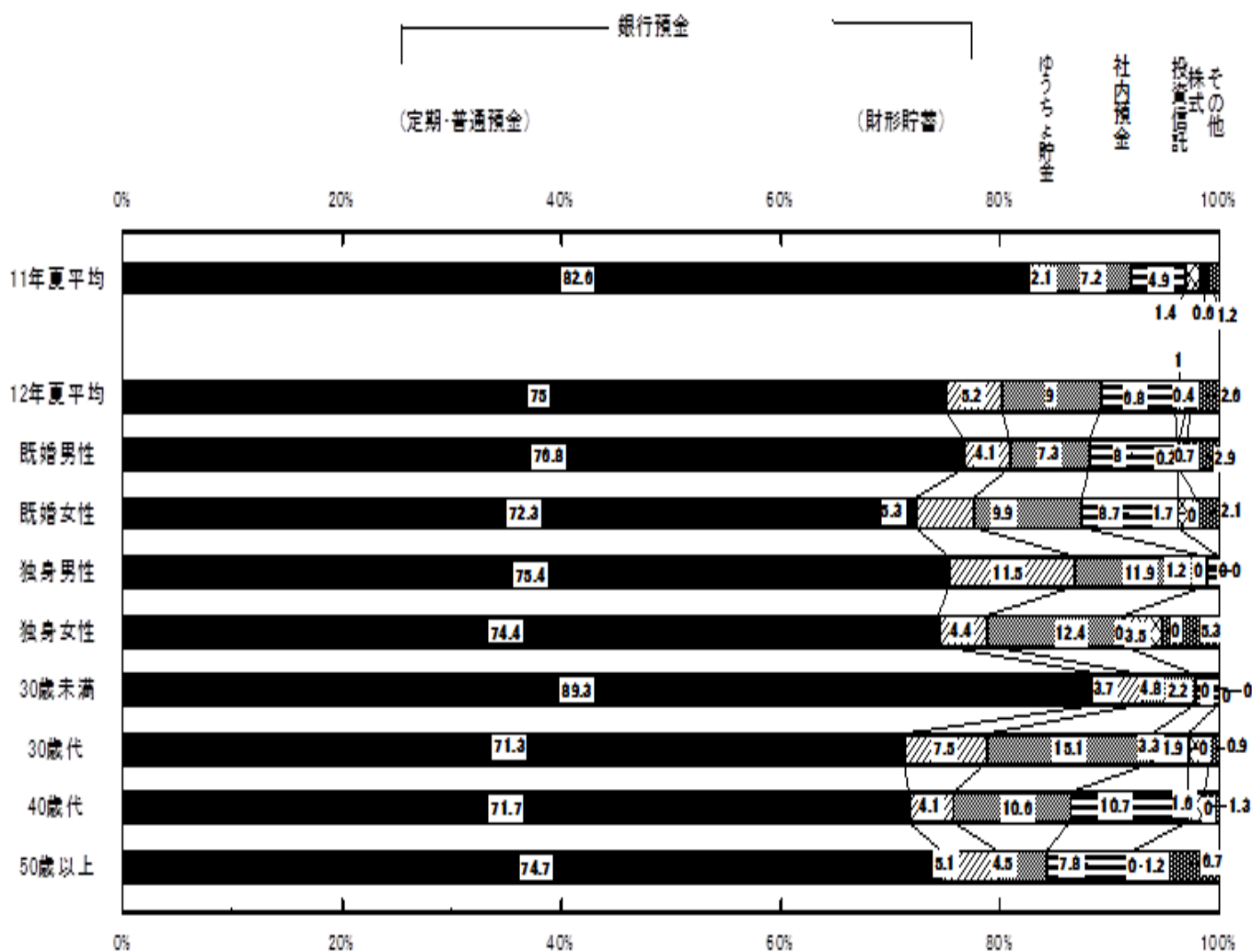
—貯蓄の内訳をみると、「銀行預金（財形貯蓄を含む）」80.2%、「ゆうちょ貯金」9.0%、「社内預金」6.8%、「株式・投信」1.4%の順となっている。順位も昨夏と同じで、銀行預金の高さが今夏も目立っている。—

(図表-7)

貯蓄の内訳を、既婚・独身、男・女別、年齢別で見ると、いずれも「銀行預金」の割合が一番高い。その中でも30歳未満は89.3%で一番高い割合を示している。「銀行預金」以外では、「ゆうちょ貯金」は30歳代(15.1%)、「社内預金」は40歳代(10.7%)、「株式・投信」は独身女性(3.5%)とそれぞれ高い関心を示している。(図表-8)

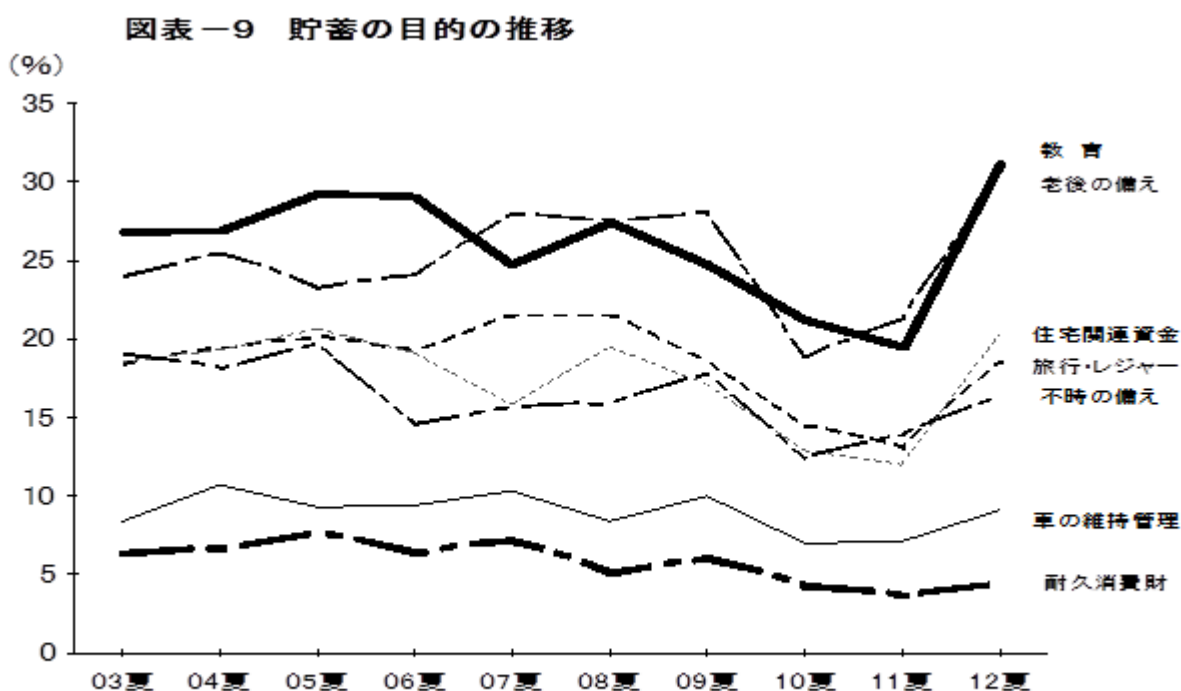


図表-8貯蓄の内訳



5 貯蓄の目的

—貯蓄の目的は、1位「教育資金」、2位「老後の備え」、3位「住宅関連資金」が上位を占めた。以下「旅行レジャー」、「不時の備え」、「車の維持管理」「耐久消費財」の順となっている。—（図表-9）



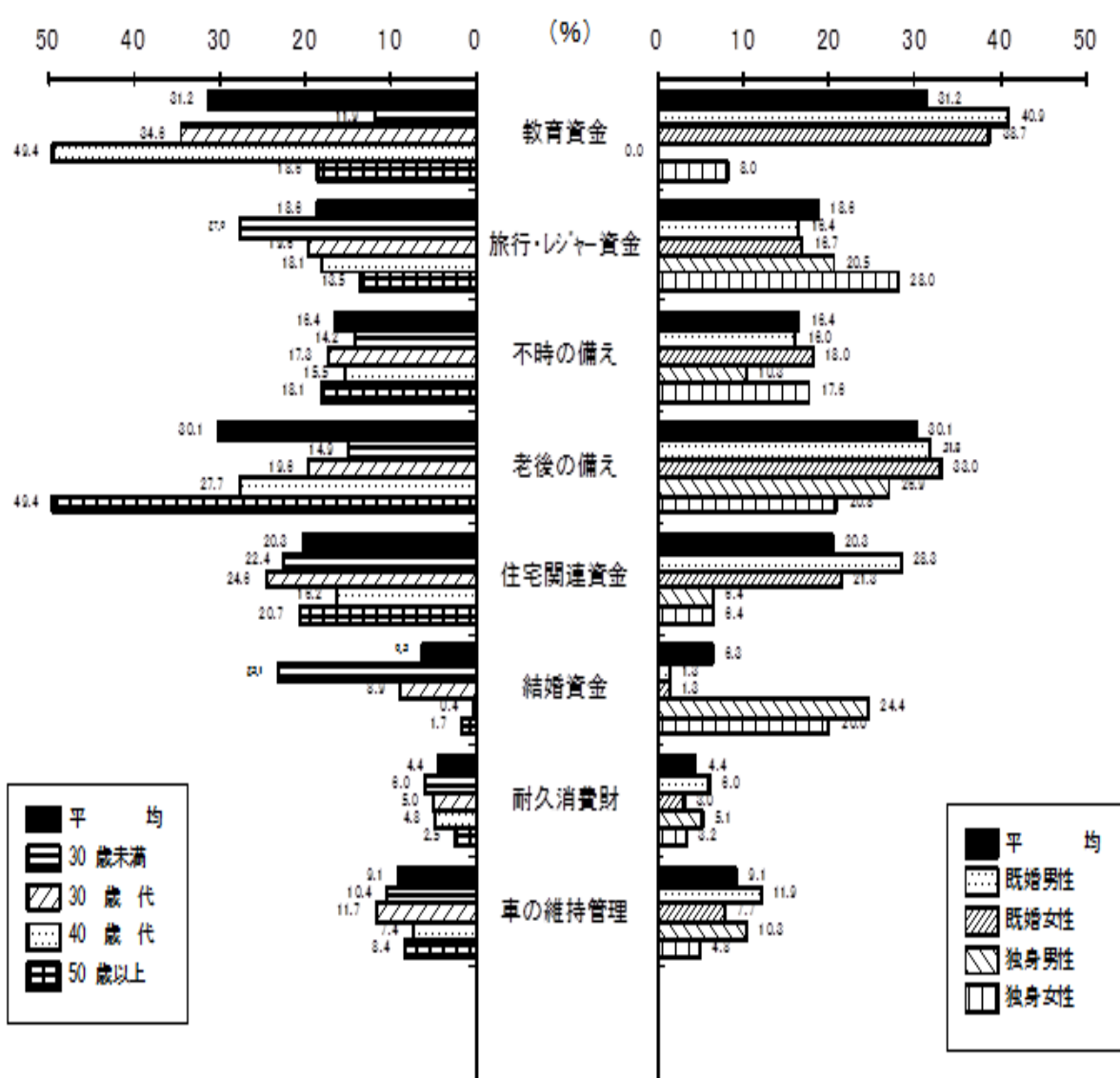
貯蓄の目的(複数回答)は、「教育資金」31.2%が昨夏1位であった「老後の備え」30.1%を上回り1位となった。つづいて3位「住宅関連資金」20.3%の順となった。

年齢別にみると、30歳未満は「旅行・レジャー」(27.6%)、30歳代は「教育資金」(34.6%)、40歳代も「教育資金」(49.4%)、50歳以上は「老後の備え」(49.4%)が、他の年齢層に比べそれぞれ高く、各年代のライフスタイルの特徴が表われている。

既婚・独身、男・女別では、既婚者は男女とも「教育資金」(男性の40.9%、女性の38.7%)、独身男性は「老後の備え」(26.9%)、独身女性は「旅行・レジャー」(28.0%)を貯蓄目的のトップにあげている。

(図表-10)

図表-10 貯蓄の目的(複数回答)



注)左欄は年齢別、右欄は既婚男・女性、独身男・女性別

6 購入希望主要品目

—購入希望主要品目では、1位「婦人服」、2位「紳士服」、3位「家具・インテリア」が上位を占めた。既婚・独身を問わず男性は「紳士服」、女性は「婦人服」をそれぞれ1位にあげている。—

ボーナスで買いたいもの(複数回答)は、「婦人服」(13.7%)、「紳士服」(9.5%)、「家具・インテリア」(7.6%)の順となった。(図表-11)

既婚・独身、男・女別では、既婚・独身を問わず、男性は「紳士服」、女性は「婦人服」を1位にあげている。

図表-11 購入希望主要品目

				(複数回答、単位：%)			
全 体				既 婚 男 性		既 婚 女 性	
	10夏	11夏	今夏				
婦 人 服	11.9	12.8	13.7	紳 士 服	13.2	婦 人 服	17.2
紳 士 服	7.6	7.8	9.5	家具・インテリア	9.9	子 供 服	9.6
家具・インテリア	6.9	7.5	7.6	婦 人 服	8.6	家具・インテリア	8.4
子 供 服	5.3	5.6	7.1	子 供 服	8.6	ルームエアコン	6.3
靴	6.2	4.8	6.3	パソコン	5.1	靴・ハンドバッグ	5.1
パソコン	4.8	6.6	5.4	独 身 男 性		独 身 女 性	
靴・ハンドバッグ	6.2	5.1	5.2	紳 士 服	26.0	婦 人 服	25.4
ルームエアコン	2.4	3.3	3.6	靴	11.0	靴	11.0
乗 用 車	3.3	3.9	3.4	パソコン	7.0	靴・ハンドバッグ	9.8
冷 蔵 庫	1.7	3.3	3.1	靴・ハンドバッグ	7.0	化 粧 品	9.2
テ レ ビ	10.1	7.4	1.9	ゲーム機・ソフト	6.0	パソコン	8.7

7 暮らし向きについて

—暮らし向きアンケート調査の「生活全般」については、半年前と比較して良化傾向にあるが、「変わらない」が8割を占め、依然として暮らし向きの停滞感が根強い。今後半年間の予想も現状より悪くなるとの悲観的な回答が多い。—(図表-12)

(1) 収入

半年前と比べ、「増えた」が12.0%(前年9.5%)で2.5ポイント増加し、良化した。また「減った」も23.4%(前年30.8%)で、7.4ポイント減少し、良化している。

半年後の先行きについては、「増えそう」は9.9%(現状12.0%)と、悪化の予想である。また、「減りそう」も31.6%(現状23.4%)と先々の収入への不安をのぞかせている。

(2) 支出

半年前と比べ、「増やした」は20.2%(前年17.2%)と3.0ポイント増加している。また、支出を「減らした」との回答割合は18.8%(前年25.0%)で、6.2ポイント減少し家計支出はやや増加傾向にある。

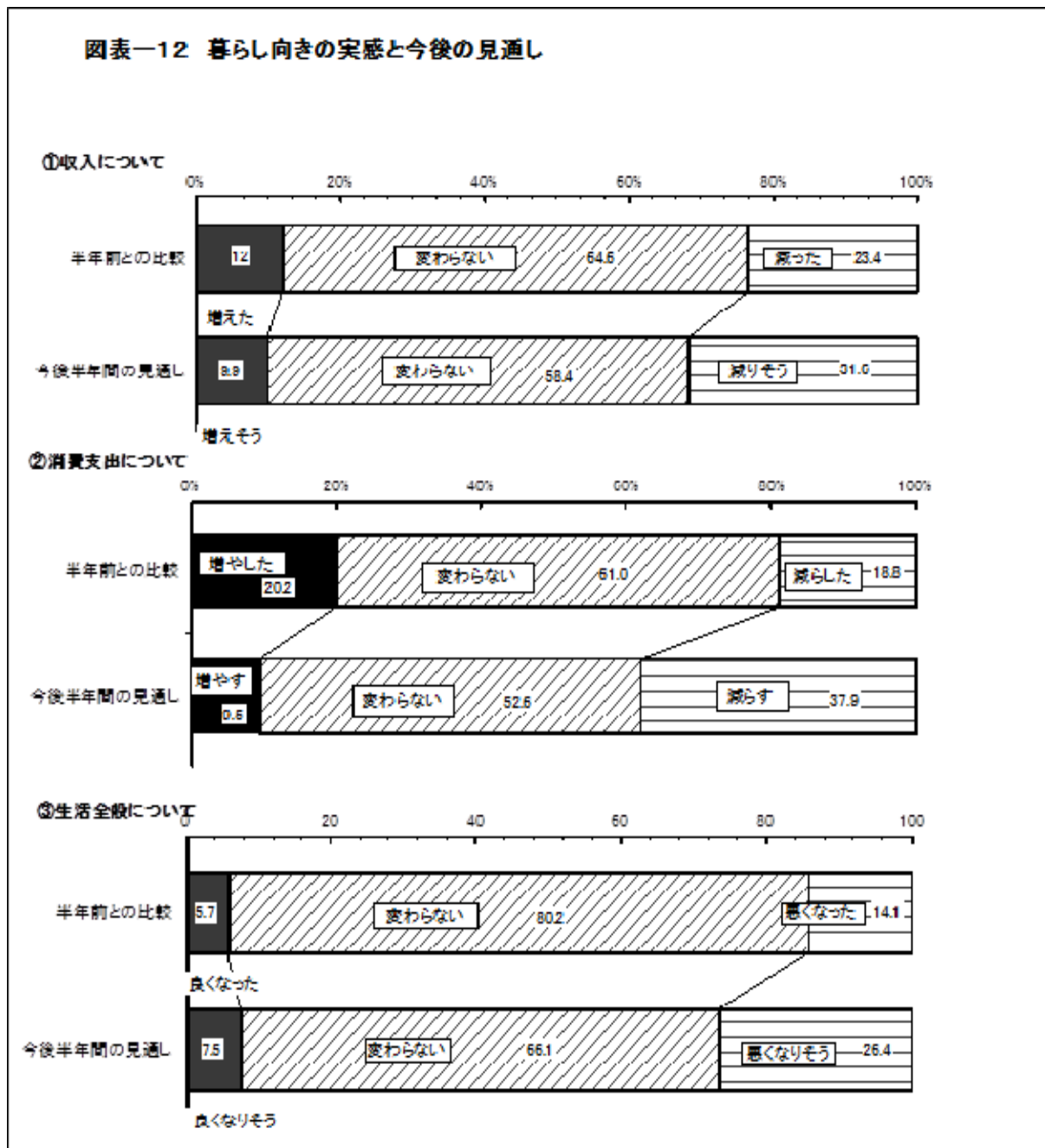
半年後の先行きについては、「増やす」は9.5%(現状20.2%)と現状より10.7ポイント減少し、「減らす」との回答が37.9%(現状18.8%)と現状より19.1ポイント増と、今後の家計消費支出に対する緊縮姿勢が見てとれる。

(3) 生活全般

「生活全般」において、直近半年間の暮らし向きについては、「良くなった」は 5.7%(前年 5.0%)と若干増加し、「悪くなった」が 14.1%(前年 23.1%)と減少しており、暮らし向きは総じて良化している。しかし、半年後の先行きの見通しとなると、「良くなりそう」が 7.5%(現状 5.7%)で 1.8 ポイント増加するが、「悪くなりそう」が 26.4%(現状 14.1%)と現状より 12.3 ポイント増加し、悪化予想が強い。

今夏の県内の給与所得者を対象とした本調査の結果では、「ボーナスの所得水準」、「暮らし向き」ともに、厳しい回答が寄せられた。今後は、震災の一日も早い復興と経済の回復を強く願いたい。

(高橋 廣)



回答者の構成					(人)
	30歳未満	30歳代	40歳代	50歳以上	計
既婚男性	25	52	121	120	318
既婚女性	18	75	108	99	300
独身男性	33	26	14	5	78
独身女性	58	26	28	13	125
計	134	179	271	237	821

アンケート調査実施要領	
①方 法	千葉銀行への来店客を対象として、ロビーにて実施
②実 施 日	2012年4月10日～12日
③対 象 地 域	県内全域
④対 象 人 員	1,000人
⑤有効回答数	821人
有効回答率	82.1 %